

地域おこし協力隊通信

vol.5

庭には、木のブランコや放し飼いの鶏。店の入口には、マスコットキャラの可愛いおじさん。訪れるたび心とむ、パン屋さんの紹介です。



取材協力店募集中！
詳細は地域資源開発課
地域資源活用担当まで！



尾形 希莉子
OGATA KIRIKO
神奈川県横浜市出身

「一つ一つのパンに詰まったこだわり、そして夢」

5月で3周年を迎える「丸山パン」。古民家を改装したこのパン屋を営むのは、丸山裕介さん。かのこさん夫婦だ。明るい音楽が流れる店内で、今日はいったいどんなパンが出迎えてくれるのだろう。

子どもの頃に思い描いた、夢の中の世界で

お二人が出会ったのは、東京の調理師専門学校のこと。裕介さんは料理人、かのこさんはパン職人という、幼い頃からの夢を一途に追いかける2人だった。



イートインもできる広いお座敷

た。卒業後はそれぞれレストランやホテルなどで修業を積み、数年後に裕介さんの出身である山梨に戻ってくることとなる。「実家の農業を継ぐつもりだったのですが、やはり自分たちの夢を叶えたいという想いが強く、周りからの要望もあり、まずはパン屋から始めることにしました。店舗探しをする中で偶然見つけたのが、一軒の古民家だった。土間を広げてパン売り場を作るなど、自身でリノベーションを行い、百歳近い家に新たな息吹を吹き込んだ。そして2018年にオープンして以来、この場をめぐって老若男女問わず多くの人が訪れるようになった。「毎日来ても飽きずにゆっくりいられる、地域に密着したお店を思い描きながら、日々パンを焼いています。その思いは、ずらりと並ぶ何十種類ものパンからも感じとることができる。もちろんサクサクふわふわ、惣菜系からお菓子系など、にぎやかなパンの姿はいつまでも眺めていられそうです。

広く深く。

一つ一つに向き合ったパンづくり

幅広いラインナップには、自分たちが食べたいと思うものを軸に、お客さんからのリクエストも取り入れている。しかし、ただ闇雲に種類を増やしているわけではない。種類の豊富さを横の広がりとするなら、各種のパンには考え抜かれた縦の深さがある。「それぞれ適するものが違うので、小麦粉や酵母の種類はパンによって使い分け、焼き方も変えています」。何度も通っていると、商品名は同じでも、パンの形やトッピングが以前と異なっているのに気づくことも。その変化は一つ一つのパンにきちんと向き合っているからこそのものであり、現状に満足しない、尽きぬ探求心の表れといえる。「作るうちに、イメージが変わってくる。ことがあります。日々試行錯誤しながら、より良いパンのあり方を探っています」。中でも特にこだわりのあるのは、石窯で焼き上げる食パン。薪集めや火力調整など手間はか



本日のおすすめ3種(クロワッサン、ドライフルーツとくるみのパン、自家製酵母パンとあんちーず)

「すね」と朗らかに語ってくれた。古民家の中はパンのいい香りとともに、子どもの頃からの夢の中に生きるお二人の、幸せそうな雰囲気。満ちあふれている。「広い古民家を利用して、皆が集まる機会を作りたいです。子ども向けのパン作り体験など、やってみたいですね」。将来的にはレストランや地域資源の活用など、パン屋の枠を超えてやってみたいことも多々あるようだ。しかし、パン屋としてのスタートはまだ切ったばかり。しばらくの間は、精一杯パン作りを極めていくという。

「楽しい団らん」と時に、私たちのパンが子供でたら嬉しいです」。

今描くのは、大人の夢

一通りのパンを用意するのに作業は朝3時から始まり、日中は接客をしながら翌日分の仕込みを行う。遅い時は午後8時ごろまで手を動かし続け、忙しい中で丁寧にパンと向き合うのは決して楽に思えないが、「パンは生き物。毎日変化する表情に合わせて、微調整してあげるのが面白いんです。何よりもお客さんに喜んでいただけるので、パン作りは楽しいです」。

CHECK!

クロワッサンなどのデニッシュ生地は、バターも手で伸ばして織り込むこだわりっぷり。サクサク食感がたまりません。皆さんもお気に入りのパンを見つけてみては？

田屋ノ前 丸山パン
【住所】山梨市落合 288
【営業時間】10:00-18:00
【定休日】日・月曜日
【連絡先】080-1186-7900

山梨市の、未来づくり。
Vol. 3

(通称) 南反保地域
将 来 像

問い合わせ

都市計画課まちづくり推進室
内線 2248

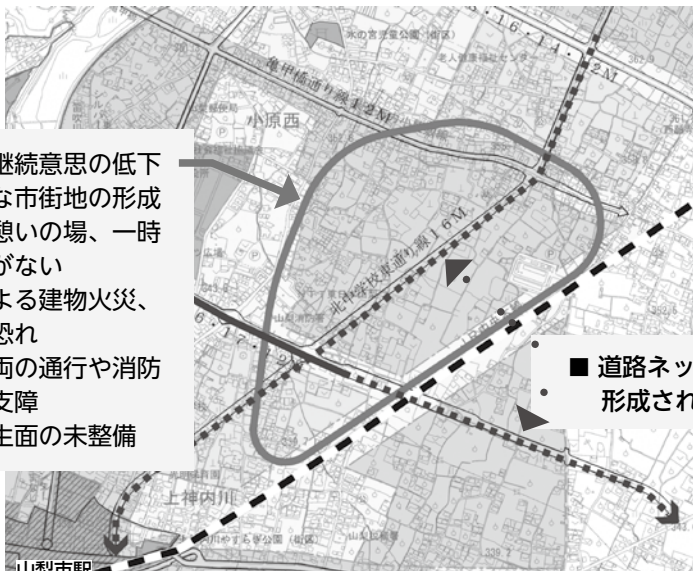
先月号で、(通称) 南反保地域と各種計画についてお伝えしました。これらを踏まえて、今月号では(通称) 南反保地域の将来像についてお伝えします。

次号連載最終回

来月は、この将来像にのって作成した(通称) 南反保地域の整備フレームおよび地域の名称募集についてお伝えします。

1 地区における課題

現在、(通称) 南反保地域は狭い道路・下水道の未整備などさまざまな問題があります。副次拠点として整備していくためには、これらの問題を解決していく必要があります。



- 営農の継続意思の低下
- 無秩序な市街地の形成
- 住民の憩いの場、一時避難所がない
- 災害による建物火災、倒壊の恐れ
- 緊急車両の通行や消防活動に支障
- 環境衛生面の未整備

■ 道路ネットワークが形成されない

2 まちの将来像

これらの課題を解消し、副次拠点として計画的に整備するため、(仮称) 南反保地域まちづくりの会において、まちの将来像を定めました。

都市計画道路の整備

- 施設の立地促進や住宅地の利便性向上のため、都市の基盤となる都市計画道路を整備します。

計画的な住宅地整備

- 農地が多く残るエリアにおいて、農地から宅地への適切な土地利用転換を図り、計画的な住宅地整備を進めます。
- 地域の魅力である眺望、地形、農地を活かし、樹園共生都市・山梨市のモデルとなる魅力あるまちづくりを進めます。

住 環 境 の 改 善

- 既存の住宅が多いエリアにおいて、空き家・空地の解消や安全・安心な居住環境の創造を目指し、生活道路を整備します。

にぎわいと共生の拠点の整備

- 幹線道路沿いの大規模な敷地が確保できる場所に、副次拠点にふさわしいにぎわいのコアとなる商業施設を誘致します。
- また、多世代が共存する環境の創出を目指し、子育て関連施設や高齢者福祉施設を誘致します。